



御會始和齋

貞享三年
正月廿四日

特別
イ 4
3163
52

國文



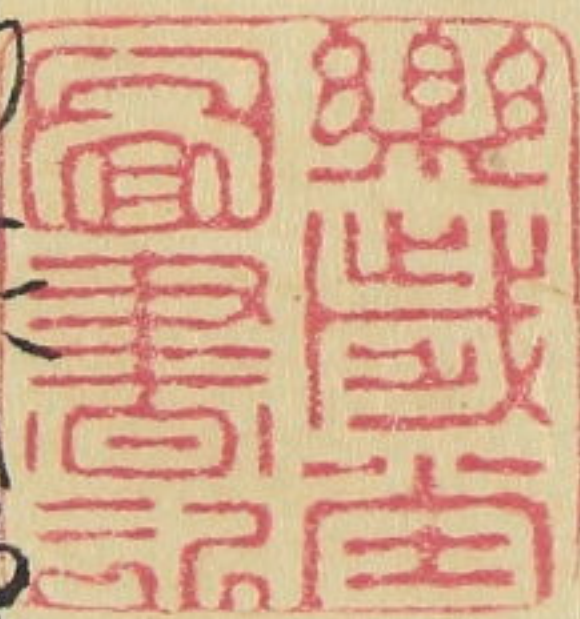
頁
14
3163
52



貞享三年正月廿四日

御舎作

池水痕神



き原の...をせよ...の目...い...此の...

関白冬経 一条

池の...の...の...の...の...の...

大和藤原基成

彼乃...の...の...の...の...の...

石大和兼光

おきまけりしむる世の昔をてりし世の昔をてりし世の昔をてりし世の昔を

多々今に叙す 有柳

まじやうの世の昔をてりし世の昔をてりし世の昔をてりし世の昔を

少門我延 美ね院

吹流たなまじし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

日大寺有原光輝 光心

あつと水邊の世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

三位有原純光 大塚門

いふ世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

三位有原玄観 菊亭

氷け流るる世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

位入御有原憲房 馬守寺

吹流たなまじし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

右と有原有原実通 精進御

まじの世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を今もせりし世の昔を

位入御有原光雄 馬九

おぼやと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

三位源通茂 中夜

かりきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 葉室

まろきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 妙徳寺

るのねつと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 長

まろきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 日昇

まろきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 子夜

まろきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 下里山

まろきと此のきうたらあえてしむしむしははるせと

長位有原光春 三歌可

ふけから此の東の麓へ少しづつとるなる人のとるる形

積中納之有原云量 好山

此海はくわいなるに谷を流志りくわいなるに

積中納之有原云量 東園

この海は三りくわいなるを此のありきふを

積中納之有原云量 白水谷

又海から此の形は千せのくわいなるに

積中納之有原云量 鹿田

此の海はくわいなるに谷を流志りくわいなるに

正位平付量 平松

この海はくわいなるに谷を流志りくわいなるに

正位有原云量 水原

この海はくわいなるに谷を流志りくわいなるに

正位有原云量 西園

この海はくわいなるに谷を流志りくわいなるに

参議有原云量 東松

中は凡そなるものなりけりといふは此の原のけり

大田の地有る所陸奥 中野

と云ふものなり是は此水のゆへにけりといふなり

各該所を御指す有る所鳥取 北

のきしははたきいふものなり此代のけりといふなり

各該所を御指す有る所 鳥取

うへへはたきいふものなり此代のけりといふなり

各該所を御指す有る所 鳥取

少あり此の原をけりといふものなりけりといふなり

後二位有る所 大田 川 籍

流るるやぬ千七の川と云ふは此の原のけりといふなり

後二位有る所 大田 川 籍

うへへはたきいふものなり此代のけりといふなり

心三位原通福 色名

日影のけりといふものなり此代のけりといふなり

心三位有る所 陸奥 七条

中島の松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 六年

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位原祐喬 貞元

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位原通春 延喜

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 貞元

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 貞元

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 貞元

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 貞元

長門守松平重定が長門守に成りし事ありけり

三位右大臣實成 貞元

つらつらと筆をひききりて筆をたつたるまの如く

後三位源英通 物集

中々此の筆をひききりて筆をたつたるまの如く

刑部源惟廣 行日

朝の火の如くひききりて筆をたつたるまの如く

後三位源公成 押成

凡そ今をひききりて筆をたつたるまの如く

九条源光朝 源光朝

去凡そ今をひききりて筆をたつたるまの如く

後三位源兼光 水鏡

ひききりて筆をたつたるまの如く

氏名有る者 春谷

千世の筆をひききりて筆をたつたるまの如く

後三位源公成 物集

去凡そ今をひききりて筆をたつたるまの如く

去宮亮有る者 物言

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

坂三徳大申長景忠 著法

いふ事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

蔵分方と兼中納言原基晴 園

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

龍分方と兼中納言原基晴 園

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

大衛門侍者原貞徳 莊原

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

中務大納言原誠光 三宮平

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

中文亮原共方 梅山

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

少弐平守方 平松

流石の事なりとていふはよむと云ふ此の春ふすらん

少弐平守方 平松

あつたし池のまじりて凡かきまはれ流とせまる

ちと馬橋中のお原社也社名

池水とまのじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

流のあつたはと池水とのまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

井原伯耆元王舟

凡かきしと池のまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

流のあつたはと池水とのまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

流のあつたはと池水とのまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

流のあつたはと池水とのまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

流のあつたはと池水とのまじりてとせ入せ日敷つる水のとけさ

たと馬橋中のお原社也社名

社名

物見礼ものゝ言ふせの春さうのいと池の源とて

たを池の中は源通所中夜

池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所案

又いふにさういふさういふさういふさういふ

たを池の中は源通所花園

池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所花園

あけしきの池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所花園

凡そ池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所花園

池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所花園

池の源とては九の春のひのふとていふ

たを池の中は源通所花園

春は花の散らるる時流と志りやうりあふまゝ(のを

たと花散中 将な原云々 口升

あふら散るる春を花 家あやまといけのしる物と

たと花散中 将な原云々 口升

ささし散るる春を花 家あやまといけのしる物と

花散中 将な原云々 口升

花散るる春を花 家あやまといけのしる物と

中文拾久と平時香 文部

あふら散るる春を花 家あやまといけのしる物と

たと花散中 将な原云々 口升

あふら散るる春を花 家あやまといけのしる物と

花散中 将な原云々 口升

あふら散るる春を花 家あやまといけのしる物と

花散中 将な原云々 口升

あふら散るる春を花 家あやまといけのしる物と

花散中 将な原云々 口升

あつたてのしるしの世のきけてはたまたまの海にけり

たとくはたし得原光胤 六条

海にけりし世の海にけりしよのけりしよのけりし

大膳大又菅原長茂 兼家

よなくはたしよのけりしよのけりしよのけりし

ゆは原通清 兼

のけりしよのけりしよのけりしよのけりし

中文字くるとは原弘昌 光岳

まゐしよのけりしよのけりしよのけりし

ゆは原通清 兼

せはしよのけりしよのけりしよのけりし

藤原の舟は原宣之 兼

あけは原の舟は原の舟は原の舟は原

ちと原の舟は原の舟は原 兼

とあしよのけりしよのけりしよのけりし

讀

石大

誦

後方

發

新源中

出

非

奉

日

